

# 私たちの生活と新聞～新聞から学ぶこと～

兵庫県立錦城高等学校 校長 高木 浩  
教諭 田中 宏典

## 1. はじめに

本校は、昭和 26 年 4 月、勤労青少年に後期中等教育を受ける機会を与えようと、明石市大蔵谷の地に明石市立東高等学校として開校した。その後、昭和 40 年 4 月に県に移管され、兵庫県立錦城高等学校と改称し、現在の明石市鳥羽の地で新たなスタートを切った。

## 2. 本校の現状

定時制普通科高校である本校には新卒の生徒、過年度卒や成人の生徒、また全日制課程から再チャレンジを目指す生徒など、年齢や経歴もさまざまな生徒が在籍している。3年間で卒業を目指す3修制と、4年間で卒業する4修制の2つの形態から、それぞれの実情に合わせて、210人の生徒が学校生活を送っている。4年間で卒業する場合は、毎日4時間の授業を受け、3修制の場合はプラス2時間となり1日6時間授業となる。仕事をした上、さらに4～6時間の授業を受けながらも、多くの生徒は部活動にも参加している。授業の中に積極的に体験学習を取り入れ、学習への興味・関心を高める工夫をするとともに、ボランテ

ィア活動や生徒会活動、そして学校行事など、自らを高める場をたくさん用意している。

## 3. 実践にあたって

### (1) 新聞の年間購読計画

本年度本校は、実践形式 B 型であったため、9～11月と1月の計4カ月にわたって、全6紙（朝日・毎日・読売・日経・産経・神戸）の朝刊と夕刊をセットでの新聞提供を受けた。

### (2) 新聞コーナーの設置

本校の HR 教室は県立明石南高等学校と共有しているため、本校の校舎から HR 教室への渡り廊下に新聞コーナーを設置した。



渡り廊下に設置した新聞コーナー

また、新聞のバックナンバーについては、約1カ月間分を目安として、生徒玄関に近い保健室前の廊下に閲覧スペースを設け、全校生が新聞に触れられるように工夫した。



保健室前のバックナンバーコーナー

#### 4. 実践の内容

##### (1) 第1学年「生物基礎」

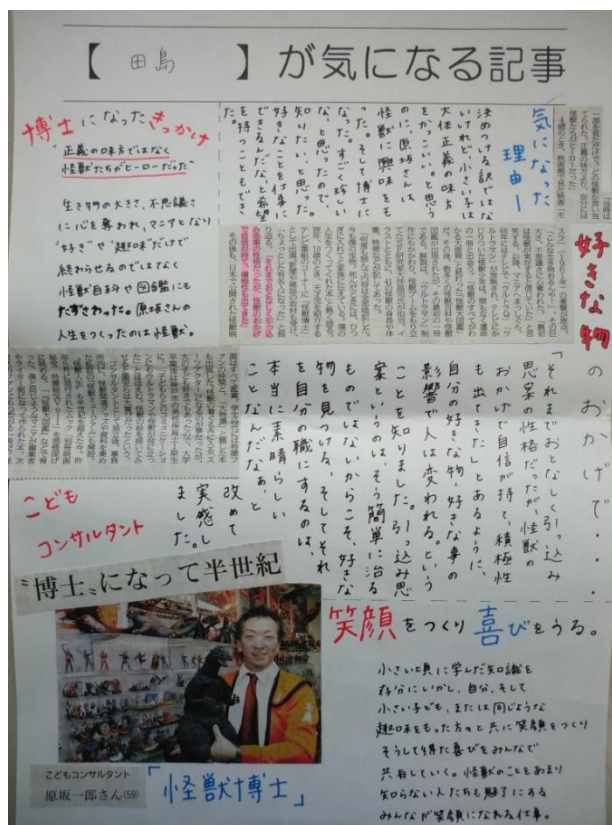
生物基礎では2学期後半～3学期にかけて「生体防御」の授業の中で、インフルエンザやジカ熱の記事を取り上げて、ウイルス感染、細胞性免疫の仕組みについての理解を手助けする教材として活用した。また、10月には今年のノーベル賞を受賞された大村智さん、梶田隆章さんの記事を全6紙全て紹介し、科学が生活の中に密接に関わっていることを生徒が知るツールとして活用した。

##### (2) 第3学年「キャリア教育」

第3学年では、3学期に2クラスでそれぞれ6回程度、「気になる新聞記事」を作成した。「気になる新聞記事」とは、新聞の中で関心がある人物について書かれている記

事を切り抜き、その記事について「なぜ、関心があるのか」「その記事の中で一番印象に残った文章」などを生徒一人ひとりがA3判用紙にまとめた。

生徒はこの記事を通して、自分の将来の働き方について考えることができた。



生徒が作った「気になる新聞記事」

##### (3) 総合学習「経済入門」

総合学習の中で実施している「経済入門」では、新聞の経済記事の中から最新の経済状況を毎回取り上げ、解説をしながら記事を読ませ、最後に感想を書かせた。本年度は消費税増税後の消費者の価格志向、インバウンド消費、日銀のマイナス金利導入などに関心があったようである。生徒たちが今後も身近な経済記事に触れる一歩になってほしいと願っている。



### 新聞を使った授業の様子

#### (4) 第4学年「LHR」

4年生では10月に計3回、LHRで新聞を読ませた。じっくりと新聞を読み、一番気になった記事について生徒同士で意見交換をしたり、読んだ感想を書いたりした。就職を目指す生徒にとっては一般常識や面接にも役立ち、またこれから社会人となる上で、新聞を読むことの必要性を考えさせる時間にもなった。

### 5. 新聞記者派遣の取り組み

9月24日(木)に新聞記者派遣事業として、時事通信神戸総局の近藤丈二記者に「新聞の読み方について」の題で、1年生から4年生の全校生徒206人を対象に講演を依頼した。本校では、全く新聞を読む習慣のない生徒が大半を占めている。また新聞自体を購読していない家庭は、8割以上にもなる。そのため講演では、新聞には政治・経済・地域・スポーツなど多様な情報が詰まっていることやスマホの情報に頼り過ぎる危険性などの観点から、全く新聞を読ん

だことがない生徒が、これから新聞に触れる機会を抵抗なく持てるような話をしていた。



### 近藤丈二記者を迎えての講演会

## 6. アンケート結果 (一部抜粋)

### (1) 新聞記者講演会について

①講演会を聴いて、新聞の読み方について理解できましたか？

- ・とても理解できた (13%)
- ・少し理解できた (47%)
- ・理解できなかった (40%)

②講演会を聴いて、新聞について興味を持ちましたか？

- ・とても興味を持った (5%)
- ・少し興味を持った (32%)
- ・興味を持たなかった (63%)

③9月から学校に置かれている新聞を読んだことがありますか？

- ・読んだことがある (8%)
- ・読んだことがない (92%)

④講演会を聴いて、これから新聞を読んでもみようと思いますか？

- ・思う（22%）
- ・思わない（78%）

#### ⑤講演会後の主な感想

- ・話の内容が少し理解でき、新聞は面白いのではないかと思ったので、家でも少しずつ読んでいこうと思った。
- ・難しい言葉がたくさん出てきて、よく分からない部分があったけれど、新聞を読むことでのメリットもたくさんあることが分かったので、学校の新聞を読んでみたいと思った。
- ・ずっとスマホだけでいいと思っていたけど、新聞もあった方がいいと思った。

#### （2）2学期末のアンケート

##### ①2学期中に新聞を読みましたか？

- ・読んだ（14%）
- ・読んでいない（86%）

##### ②読まなかった理由

- ・興味がない（65%）
- ・読む時間がない（28%）

##### ③3学期以降、新聞を読んでみようと思いますか？

- ・思う（19%）
- ・思わない（81%）

## 7. 実践の感想と今後の課題

本年度から NIE 実践校の指定を受け、この1年は本校生に新聞を読む機会を持たせる動機付けに取り組んできた。生徒の動線を考え、まず学校に新聞があることを知っ

てもらおう段階から始めた。2学期末では、約9割の生徒が新聞の設置場所について「知っている」と回答している。しかし、実際に新聞を手にとって読んだ生徒は、2割程度しかいなかった。その主な理由として、「興味がない」「読む時間がない」であった。来年度に向けては、HR 教室にも新聞を置き、生徒に新聞をより身近に感じてもらう環境の工夫・改善の必要がある。

2学期に実施した新聞記者講演会では、本校生の現状に沿った内容で話をしていたものの、アンケート結果から分かるように、約4割の生徒が新聞の読み方について理解できなかったという結果になった。また、講演内容についても生徒はやや難しく感じたようで、新聞記者派遣事業を効果的に活用できず、大きな反省点となった。

授業での取り組みでは、クラス全員に新聞を読ませる時間を設けたり、教科の学習理解を深めることに活用したり、気になる新聞記事の切り抜き文章を書かせるなど、各教科とも工夫した内容となった。

来年度は、1年間を通した新聞の購読を考えており、生徒が新聞に触れる機会をより多く設けたい。そして、新聞を積極的に取り入れる授業を企画し、生徒に新聞を少しでも身近に感じてもらう工夫をさらに重ねていきたい。